

さとやまさとらみ ^{あき} 里山里海湖の秋さがしをしよう!

このシートにのっている生きものなどを見たり、鳴き声を聞いたりしたら、さとやまさとらみけんきゅうしょ ほうこく 里山里海湖研究所に報告してください。

【庭・山など】

カエデやイチョウ、サクラなどの葉が色づき始めます。

【山の斜面など】

ハギ（ヤマハギ）です。紅紫色の花が咲くよ。たまに白いのも・・・。

【田や小川のふちなど】

ヨメナというキクの仲間です。野菊とまとめて呼ばれることもあります。

【草むら・林など】

カマキリの卵です。寒い冬にそなえて、大きな卵（卵のう）を産むよ。

【道ばたなど】

ヒガンバナです。放射状にあざやかな花を咲かせます。花と葉を同時に見ることはできません。

【田畑など】

マガンです。水鳥だけ、昼間は田んぼや畑にいることが多いよ。

【水辺など】

セキレイです。いつも尾羽を上下にふっているよ。「♪チチチチ」という鳴き声を聞いたことあるかな？

【田畑・草むらなど】

コオロギです。「♪リリリリ〜」と前ばねをこすり合わせて鳴いているのはオスです。

身近な生きもの観察報告シート

見つけた生きものに○をつけて送ってください。↓	生きもの名 【七十二候など】	写 真	説 明
	セグロセキレイ 【「せきれいなく」9/13～9/17】		【体 長】21cm～23cm 【生息地】河原や湖などの水辺 別名でイシタタキとも呼ばれるように、長い尾羽をいつも上下にふっているのが特徴です。
	ヒガンバナ (マンジュシャゲ) 【雑節「ひがん」9/23】		【草たけ】30cm～50cm 【生育地】田畑のまわり 秋のお彼岸のころ、真っ赤な目立つ花をつけます。花が咲いているときには葉は出ません。
	カマキリのたまご 【「むしかくれてとをふさぐ」 9/28～10/2】		【大きさ】2cm～4cm (種類によってちがいます) 【生息地】枯れ草の茎や小枝、へい、石など カマキリは卵で冬を越します。カマキリの卵は、100～300 個の小さな卵を守るようにスポンジ状のものでつつまれています。正確には「卵鞘 (らんしょう)」または「卵囊 (らんのう)」と言います。
	ハギ (ヤマハギ)		【樹 高】1m～2m 【生育地】日当たりのよい山の斜面など 秋の七草の一つで、落葉の低木です。福井県内にはキハギやツクシハギなどのなかまも見られます。
	マガン 【「こうがんきたる」 10/8～10/12】		【体 長】65cm～86cm 【生息地】水田や広い河川じき マガンは日本で一番数が多いガンで、冬鳥として渡来します。くちばしがオレンジ色です。くちばしが黒く、先端が黄色いのはヒシクイです。
	ヨメナ 【「きくのはなひらく」 10/13～10/17】		【草たけ】50cm～120cm 【生育地】しめったところ 田や小川のふちでよく見られます。似ている植物にノコンギクがありますが、こちらは果実に冠毛がつくので見分けられます。
	コオロギ (エンマコオロギ) 【「きりぎりすとにあり」 10/18～10/22】		【体 長】25mm～30mm 【生息地】畑や草原 体の色は黒や茶色で、後ろ足が長く太く発達しています。前ばねについている発音器をこすりあわせて鳴き声を出します。
	カエデ、イチョウなどの 紅葉 【「もみじつたきばむ」 11/2～11/6】		【紅葉のしくみ】葉の内部には緑色のもとであるクロロフィルと黄色のもとであるカロチノイドという色素があります。秋になると緑色のクロロフィルが分解され、赤いアントシアンという色素が作られます。そのため、カロチノイドが多くなると黄色に、アントシアンが多くなると赤色に見えるのだそうです。

※できるだけ写真もいっしょに送ってください。

氏 名			
学校名・学年	学校	年	
調べた(見た)日	年	月	日
見つけた場所			

さとやまさと う み

送り先：福井県里山里海湖研究所

【郵 送】〒919-1331
三方上中郡若狭町鳥浜 122-31-1

【FAX】0770-45-3680

【E-mail】satoyama@pref.fukui.lg.jp